

四国中央市
まち・ひと・しごと創生
『人口ビジョン・総合戦略』
～概要版～



四国中央市

人口ビジョンについて

策定方針

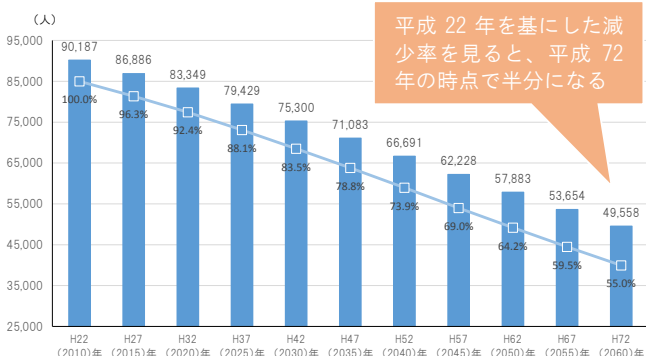
国の長期ビジョンと愛媛県人口ビジョンを勘案するとともに、本市の人口減少の要因と課題を明確にし、将来人口推計や将来展望及びそれを実現するための基本目標の設定などを行います。

対象期間

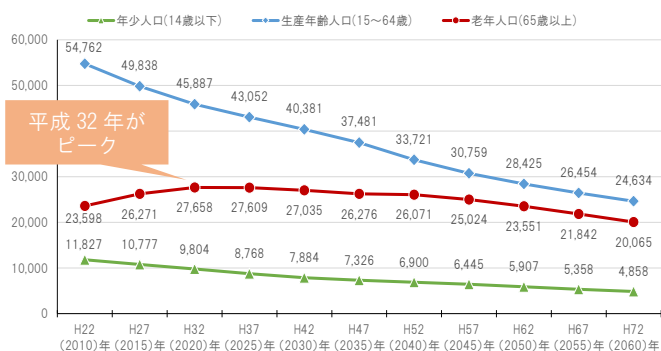
人口ビジョンの対象期間は、平成 72 年（2060 年）まで。

人口の現状

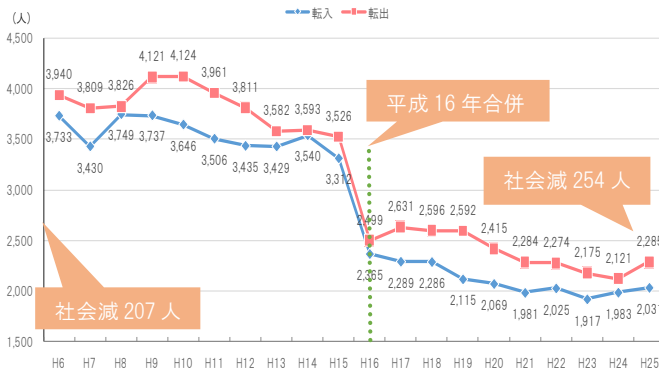
◆ 将来人口推計



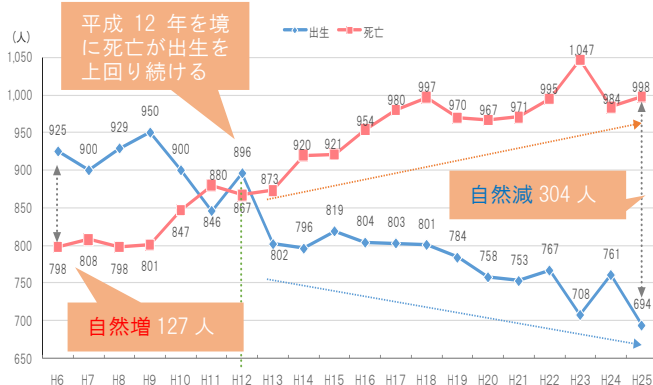
◆ 年齢3区分将来推計人口割合



◆ 社会動態の推移



◆ 自然動態の推移



人口の変化が本市の将来に及ぼす影響

地域住民への影響

高齢者と若い世代との年齢構成のバランスが崩れ、地域コミュニティの維持や地域での支え合い、地域活動の実現が困難となり、まちの活力の低下が懸念されます。



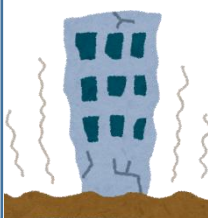
生活環境への影響

日常生活における様々なサービスの維持が困難となる可能性があり、空き地や空き家が増えることで、環境の悪化が懸念されます。



経済活動への影響

人材不足が深刻化し、企業の廃業や撤退など、産業活力の低下が懸念されます。



子ども・子育てへの影響

コミュニティの形成が困難となり、地域で互いに支え合うような環境の強化が進まなくなる恐れがあります。



人口減少対策の方向性

課題

- ❖ 地域外に出た若い世代が戻って来たく
なるあったかい環境が必要
- ❖ 結婚しても生活することに困らない、
雇用の充実した環境で、介護や福祉も
重要視し、子どもを安心して育てられ
るまちが求められる
- ❖ 優れた人材を確保する取り組みが必要
- ❖ 持続した雇用を実現させられる環境が必
要
- ❖ ブランド戦略でまちの魅力やイメージ
を発信していくことが必要
- ❖ 高齢者が活躍できる場を検討が必要

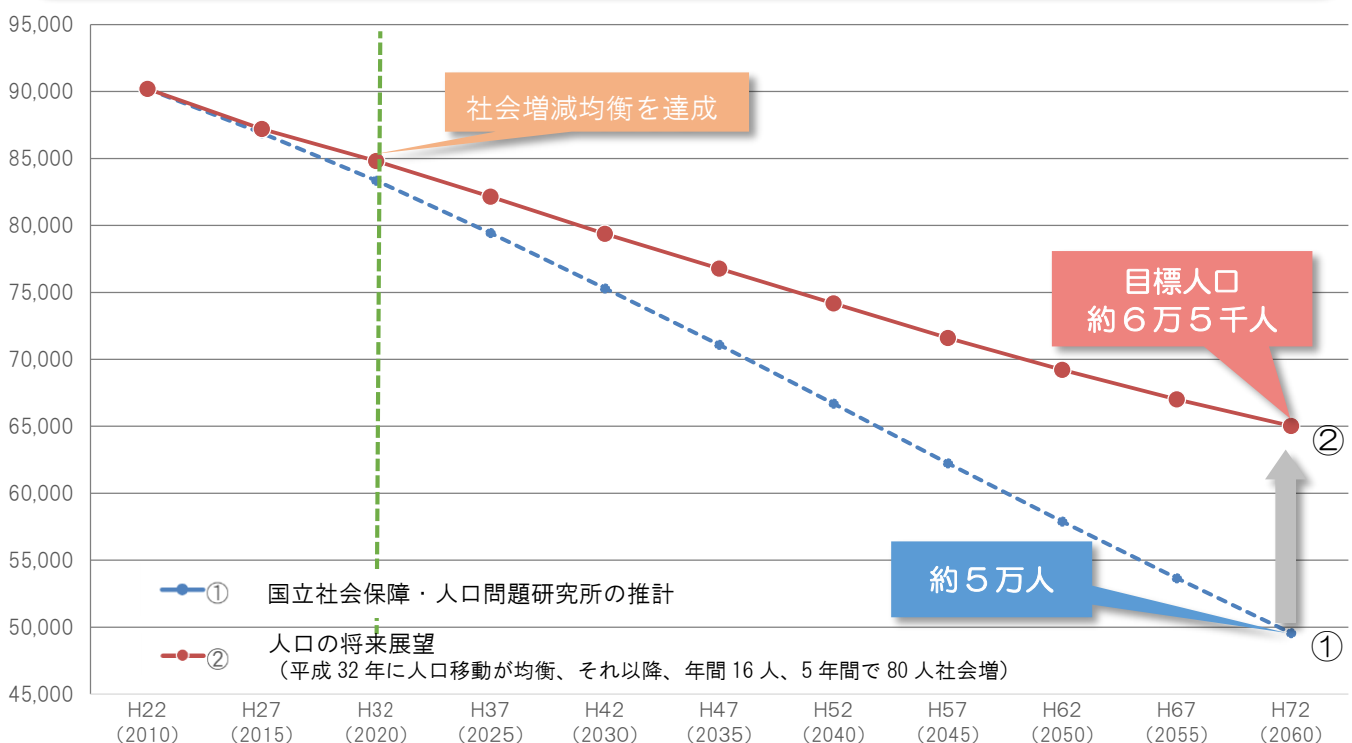
- 方向性 1** : 結婚・就労・教育・子育て・福祉施策な
どを統合的に行い、切れ目のない支援の展
開を目指す
- 方向性 2** : 地場産業の強化を行い、若い世代が活躍
し、安心して働くことのできる環境構築を
目指す
- 方向性 3** : 移住定住を促進し、いつまでも暮らし続
けられて、持続するまちづくりを目指す
- 方向性 4** : 地域資源を磨き、地域内外問わず情報発
信し、四国中央市のファンを増やし、交流
人口拡大を目指す
- 方向性 5** : ライフスタイルに応じた生活環境の向上
や四国中央市の魅力の強化を実現するた
めの土台となる組織や体制づくりを目指す

人口の将来展望

本市は、人口の将来展望を整理した結果、平成 37 年（2025 年）に約 82,000 人、平成 72 年（2060 年）に約 65,000 人の人口を達成し、その後維持を目指すこととしました。

○目標人口 65,000 人を達成するためには・・・

- ・合計特殊出生率を平成 42 年（2030 年）に 1.8、平成 52 年（2040 年）に 2.07 に向上
- ・平成 32 年（2020 年）に社会増減の均衡を達成し、それ以降年間 16 人程度の社会増
- ・5 年間で 80 人程度の社会増、特に 15 歳から 34 歳まで若い世代では現在の 2 倍増



総合戦略について

策定趣旨

本市が抱える人口減少問題に対応するため、「第二次四国中央市総合計画基本計画」に掲げる政策・施策を承継し、かつ、人口減少対策に効果・実行性のある取組みを戦略的に進める計画として、「四国中央市総合戦略（以下「総合戦略」という。）」を策定します。

対象期間

平成 27 年（2015 年）度から平成 31 年（2019 年）度までの 5 年間。

基本的考え方

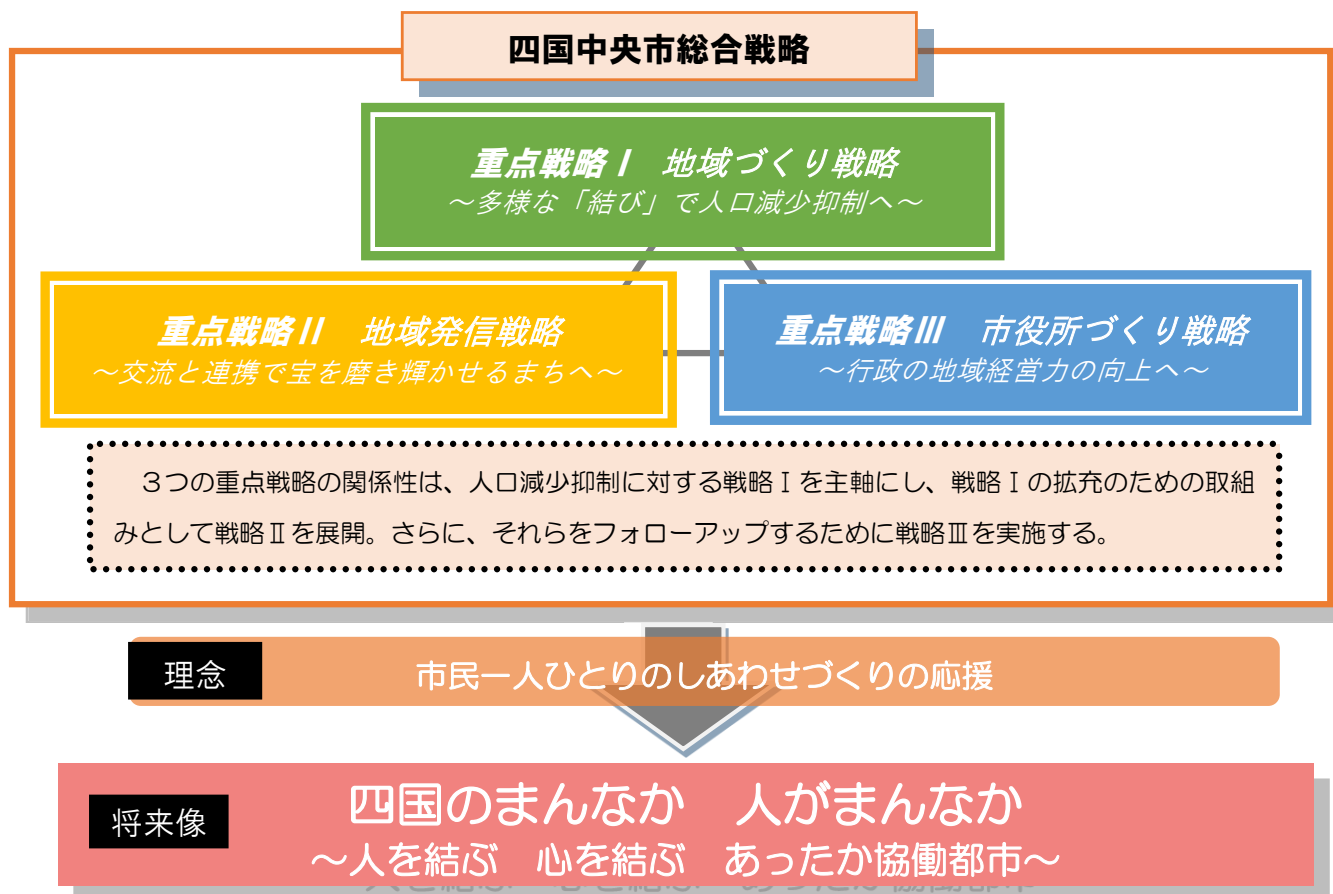
今後のまちの未来を考えると・・・

- 子育て世代が安心して住みやすいまちになっていくことが必要
- 地域外に出た若い世代等が、戻って来なくなるあたたかい環境（優しく迎え入れてくれる）の構築が必要
- 5年間で人口減少を抑制するための仕組みや土台を築いていくことが必要



そのため、市民・議会・市が手を取り合い、市民一人ひとりのしあわせづくりを応援するまちづくりを展開し、市全体で人口減少についての危機意識を共有しながら、減少抑制につなげていきます。

人口ビジョンで掲げた将来目標人口の達成に向け、第二次総合計画で掲げた理念「**市民一人ひとりのしあわせづくりの応援**」と将来像「**四国のまんなか 人がまんなか ～人を結ぶ 心を結ぶ あったか協働都市～**」の実現を目指し、重点となる3つの戦略を柱に、取組みを展開していきます。



基本方針1 出会い・産み・育てやすいまちづくり・ひとづくり

- 出会いや交流、結婚のきっかけとなる取組みや妊婦さん・子育て世帯への支援も充実させ、「妊婦さんに優しいまち」というイメージ戦略を展開することで、定住（定着）を図ります。また、安心して子どもを育てられるように、地域で支える子育て支援の充実を図ります。

【施策1】 出会い・再会のきっかけづくりの推進及び支援

- 「出会い」「再会」「交流」など、結婚へのきっかけづくりの支援
- 支援団体等との連携による結婚に関する支援体制の充実
- 「結びのまち」など結婚イメージの向上による定住の促進



【施策2】 切れ目のない子育て支援の推進(四国中央市版ネウボラ※の検討)

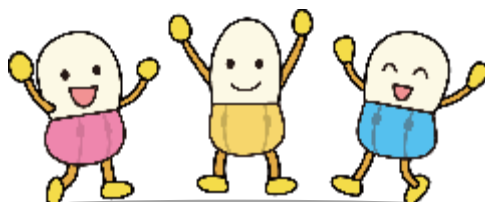
- 子育て支援員等の養成と支援体制の充実
- 本市ならではの支援策による子育ての負担の軽減
- 多様なニーズに対応する保育環境の整備
- 3世代が安心して暮らすことができる医療・介護体制の充実



※ネウボラ：フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する支援制度で、妊娠から出産、子どもが生まれた後も基本的には6歳まで切れ目なくサポートを提供する総合的な支援サービスです。

【施策3】 市民ぐるみで、子育てや見守りができる環境の整備

- 市民参加型の子育て支援活動の充実
- 男性(父親)の子育て参加と子育て学習の促進
- 地域で子育てや見守りができる支援体制の整備
- おじいちゃん、おばあちゃんの孫・ひ孫育ての支援



基本方針2 産業活力の創造と魅力的な職場環境の整備

- 若い世代や起業を望む者に対し、産官学金労等の連携等を通じて、若者の志を支え、新たなビジネスを生み出していきます。また、若い世代の意見提案の場を創出し、実現できるようなまちづくりの展開を図ります。

【施策1】 産官学金労等の連携によるイノベーション促進と、魅力ある職場づくりの推進

- 産官学金労等との連携によるイノベーション力の強化と地域活力の創造
- 24時間稼働する活力と温もりに満ちたまちの魅力創造
- 地元企業と連携したキャリア教育の推進



【施策2】 企業誘致や創業支援、新たな雇用機会の創出と新産業の育成支援

- 企業誘致等を促進する産業基盤の強化
- ベンチャー企業等の創業支援と新産業の育成
- 第1次産業や伝統産業への若者の就業機会の創出



基本方針3 多様な連携・交流による“あったかい”まちの実現

- 地域外から訪れる人や四国中央市に戻ってきた人（UIJターン者）を“あったかく”迎え入れる環境（受け皿）を構築し、市内への移住や定住を促進します。
- 広域的なネットワークの形成と運用を進め、相互の発展を目指した施策連携強化に取組み、四国中央を愛する“あったかい”心を持つ人材を育てます。

【施策1】 若者のUIJターンの促進と移住・定住環境の整備

- UIJターン希望者の受入体制の充実
- UIJターン希望者等への効果的な情報発信
- 小さな拠点の形成等の検討と地域おこし協力隊による活性化の推進



【施策2】 県域・市域を超えた多様な交流・共同・連携の促進

- 県及び近隣市との広域連携の推進
- 他地域との広域連携の推進



【施策3】 四国中央市に愛着を持つ“あったかい”人材を育成

- 本市の未来について考える「子ども会議」や「ユースミーティング」等の開催
- あったか支援員の育成支援



基本方針1 地域の宝(ひと・もの・こと)の情報発信による交流人口の拡大

- 本市特有の地域資源を活用し、積極的な情報発信や誘客活動により、交流人口の拡大を目指し、若い世代が四国中央市で働き暮らしたくなる環境を整備するために、雇用体制の強化や、愛着を持って暮らしていくための取組みを進め、市内への移住や定住を促進します。

【施策1】 地域の宝の発掘・発信による誘客の促進

- 四国中央市の魅力の発掘、活用、発信
- “四国のまんなか”としての知名度向上促進
- “産業イノベーションのまち”としての戦略的なPRの強化



【施策2】 おもてなし力の向上による交流人口の拡大を推進

- 向上による交流人口拡大の推進



【施策3】 安心できる暮らしの情報提供とサポートの推進

- 安心して暮らしていくための情報提供の充実
- 暮らしたくなる・暮らし続けられる生活のサポート支援

基本方針2 しあわせづくりの応援団「四国中央市ファン」の醸成へ

- 郷土愛を持つ人材として、本市の子どもたちがたくましく成長できる教育環境を構築するとともに、広域的な交流・連携と情報発信を進め、市民全体でシティ・セールスを総合的に展開することで、四国中央市に愛着を持つ人（＝四国中央市ファン）の醸成を図ります。

【施策1】 本市の伝統や文化を継承し、郷土愛を育む人材の育成

- 郷土愛にあふれた人材育成の支援
- 観光振興の体制強化



【施策2】 効果的なシティブランド・セールスの展開

- 一丸となったシティ・セールスの協働推進
- 6次産業化の推進による“四国中央ブランド”の創出・強化



【施策3】 国内外の四国中央市ファンの拡大

- 四国中央市の応援団、ファンの育成支援

基本方針1 効率的な行財政運営、行政サービスの質の向上を追求

- 戦略Ⅰ、Ⅱを展開する際のフォローアップ体制や資金の調達などをシステム化し、機能的な行政運営や行政サービスの質の向上を追求していきます。

【施策1】 公共財産の適正配置(マネジメント)の推進

- 公共施設の適正配置と長寿命化
- 民間活力の活用

【施策2】 戦略を支える機能的な行政運営・体制づくりの推進

- アウトソーシングの推進
- 柔軟で機動的な組織への転換
- 有機的な人事管理制度の構築

【施策3】 効率的・効果的な行政運営及び持続的な財政運営の推進

- 業務改善・効率化・効果的な行政運営の推進
- わかりやすい市政情報提供、情報公開度の向上・見える化
- 合理的で適正な財源の安定確保

実施に向けて

(1) 進行管理と検証の体制

- ・定期的に重要業績評価指標（KPI）※の達成状況を評価し、各施策や事業の見直しを行います。
 - ・『四国中央市協働推進会議』や市議会等で意見等を徴収し、まち・ひと・しごと創生本部で、事業効果の検証や見直しを行います。
- ※各施策の重要業績評価指標（KPI）については、総合戦略（本編）をご覧ください。

(2) PDCA サイクルによる見直し

- ・基本目標の数値目標、KPIにより、具体的施策が目指す目標を明確化し、PDCAを行います。
- ・PDCAにより確認された内容に基づき、必要に応じて、具体的な取組みを見直していきます。

(3) 事業の実現に向けた手法の検討

- ・国や愛媛県の支援制度、ふるさと納税やクラウドファンディングの活用を検討し、財政負担の低減を図ります。
- ・行政主導だけでなく、企業・民間団体等とともに協働体制で取組みを進められるように検討していきます。

(4) 計画期間後の取組み

- ・計画期間内での実施が難しいものの、今後実現に向けた取組みを継続して検討していきます。